

外国語科

石川 理恵

中橋 弘高

田中 里美

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. はじめに

外国語科において育成すべき資質・能力は、三つの柱から次のように整理されている。「知識及び技能」として、「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解する」という知識とその知識を「実際のコミュニケーションにおいて活用できる」技能を身に付ける。「思考力、判断力、表現力等」として、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、理解したり、伝え合ったりすることができる」力を養う。「学びに向かう力、人間性等」として、「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成する。そして、これら三つの資質・能力は、言語活動の中で思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて知識及び技能が習得され、学習内容の理解が深まり、学習に対する意欲が高まるなど、相互に関係し合いながら育成されることが求められている。したがって、思考・判断・表現するというプロセスが非常に重要であることが分かる。

外国語の授業で言語活動を行う際には、「目的や場面、状況など」を意識し、それらに応じて考えや気持ちを整理し、論理的に伝えることが重要となる。相手の理解の状況を確認しながら伝えるなど、相手への配慮も不可欠である。外国語科の授業での言語活動を通して育成される、目的、場面、状況、相手に応じて内容を整理し適切に伝える力は、創造デザイン科における探究的な活動の過程においても活用されることが期待されると考え、昨年度、本校の外国語科で育成に取り組んできた。

しかし、昨年度末に実施した全校生徒を対象とした調査の結果から、外国語科の授業における「相手意識」を持って活動に取り組むことが創造デザイン科の活動に十分に生かされていないことが明らかになった。そこで、今年度は、「相手意識」を持つことに絞って取り組んでいくことにした。

2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（1）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

創造デザイン科とは、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、本校が新設した教科である。「総合的な学習の時間」を創造性の育成に特化し、教科化しており、デザイン思考のプロセス（図1）を基にカリキュラムを作成している。生徒への調査の結果（本校紀要『総論』別紙1～3参照）から、そのプロセス全体にわたって、相手の立場に立って思考する力が必要とされることが明らかになった。前節で述べた通り、外国語科の言語活動においても相手を意識することが極めて重要であるため、そこで培われた力は創造デザイン科においても活用されるものと考えられる。

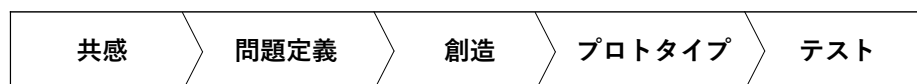


図1 デザイン思考のプロセス

しかし、生徒が必要だったと考える力とその力に関する教科等の調査結果によると、外国語科との関連が低いと認識したものが多く見られた。デザイン思考のプロセスの段階において、「様々な視点から物事を見る力」「人の気持ちを考える力」「相手の気持ちを考えつつ、班の意見をまとめる力」「物事を客観的に見て、分かりやすいスライドを作る力」の認識が特に低かった。このことから、生徒が外国語科の授業を通して、相手意識を持って伝える力が十分に育成されていなかった可能性が示唆される。このため、外国語科では、デザイン思考の各段階において活用される力につながるように、生徒が相手や場面を明確に意識しながら活動できるよう指導していく必要がある。また、言語活動において、生徒の自由度を段階的に上げていく経験を積むことを通して、創造デザイン科の授業における生徒の創造性の育成につなげていくことを目指す。

表1 生徒が必要だったと考える力とその力に関する教科 (外国語科)

デザイン思考のプロセス	ポイントが比較的低い項目
「共感」「問題定義」	「様々な観点から物事を見る力」「人の気持ちを考える力」「自分の意見を相手に伝え、話し合うことで考えを広げる力」
「創造」「プロトタイプ」	「相手の気持ちを考えつつ、班の意見をまとめる力」「コミュニケーションを通して情報を収集する力」
「テスト」	「物事を客観的に見て、分かりやすいスライドを作る力」「データや活動の結果から必要な情報を整理し、要点をまとめる力」

(2) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

① 1年生

探究的な活動を継続することにより、生徒たちの学習内容の理解を深めることができている。相手意識を持たなければ、伝える内容を整理したり、それを伝える際の言語を考えたりすることもなくなる。相手について知ろうとする生徒の意識を高めることが、内容の理解をより深めることにつながると考え、二つの手立てを行った。

第一に、言語活動における目的や場面、状況、相手の設定をより具体的にすることである。Lesson 1では「自分の事をより知ってもらえる自己紹介の内容を考える」、Lesson 2では「読み手が理解しやすいように、文の順序を考える」、Lesson 3では「紹介文を読んでどんなものがイメージできるように書く」などを提示した。そうすることで、生徒たちは、一方的に内容を発信するのではなく、徐々に相手に理解してもらえる内容や表現であるかを考えるように変化していった。また、学期末に行った Reading for Fun 1 では、教科書の登場人物に予算内で買える誕生日プレゼントを買うという活動を行った。場面を理解した生徒は、登場人物の好みについて知りたがるようになった。趣味や好きな色、癖を考慮し、生徒たちはいろいろな文房具の組み合わせを考えていた。おのずと目的を達成しようとする姿が見えた。この Reading for Fun 1 での活動を踏まえ、学んだことの集大成の表現活動として Project 1 を行った。理想のロボットを提案する活動では、導入時に、実在する様々なロボットを紹介するテレビ番組を視聴した。これらのロボットはどのような場面で使われるか、また、誰を助けることができるのかを考えさせた。状況を現実的にすることで、生徒たちは活動内容を自分事として捉え、創造的なアイデアを出しながらオリジナルのロボットを考えようとしていた。また、ペアでロボットを紹介し合う言語活動では、ペアを変えながら繰り返していく中で、生徒たちは、相手の反応を見たり、情報の追加や訂正を行ったりすることで、相手のニーズに応えるためのより伝わりやすい表現について考え続けていた。

第二に、言語活動における相手の設定を学校以外の人物にすることである。昨年度、アンケートで、外国語科との関連性が低いと感じられた要因として、目的や場面、状況が設定されているものの、外国語科の授業で行われる活動では、クラスメイトに向けて発信することが多いことだと考えられた。そこで、今年度は生徒たちが相手の情報やニーズを知りたくなる活動を設定し、伝える内容やその伝え方を考えられるようにした。Lesson 5では「附属中学校の学校生活について紹介しよう」、Lesson 6では「夏休みの思い出を伝えよう」という活動を行った。生徒たちは、生活や文化が異なる相手に理解してもらうために、必要な情報を収集してそれらを比較したり、相手に伝わりやすい語彙や表現を考えたりしようとしていた。相手を学校以外の人物に設定することは、生徒の思考を働かせ、学習内容の理解をより深めることができると考える。

② 2年生

言語活動における相手意識をさらに明確化するために、2つの手立てを講じた。第一に、内容面での工夫につながる活動の実施である。Reading For Fun 1では、狂言の『柿山伏』を視聴し、内容を整理し、その魅力を相手に分かりやすく伝える活動を行った。課題は「柿山伏を見たことがない外国語指導助手（相手）にその魅力を感じてもらうために（目的等）、面白さの感じられるポイントについて（話題）、事実や自分の考えを整理し（内容）、分かりやすく書いて伝える」とした。ストーリーや役者の演技など面白さを感じられる点について考えをまとめ、その上で適切な語彙を選択して簡潔に表現することが求められる。大部分の生徒にとっては、発信語彙として定着している語彙数が限られているが、相手が魅力を感じポイントは何かについて考え、キーワードや挿絵を補助として用いつつ、個々の運用能力に合わせて取り組んだ。また、Lesson 5では、「中学校生活に不安を抱いている小学生（相手）に安心して入学してもらうために（目的等）、学校生活について（話題）、事実や自分の考えを整理し（内容）、簡単な語句や文を用いて伝える」と課題を定め、活動を行った。創造デザイン科で得られたアンケート結果を踏まえ、不安なく入学してもらうという目標を達成するために、小学生が必要としている中学校生活に関する情報を、限られた語彙数の中で相手が分かりやすいように工夫して発信することが求められる。新入生が知りたいことは何なのか、それを理解しやすいように表現するにはどうすればよいかなど、発信する内容について、ペアやグループで意見交換し、相手を変えてさらに話し合いを繰り返して試行錯誤する中で、ねらいとする資質・能力の育成を図った。

第二に、言語面での工夫の喚起される活動の実施である。Lesson 3では、水不足に関する教科書の英文を読んだ後、身の回りにある問題とそれを解決するためのプロジェクトについて伝える活動を行った。課題は、「英文を読んだ級友（相手）からもっと知りたいという反応を引き出すために（目的等）、身の回りの問題について（話題）、事実を整理し（内容）、簡単な語句や文を用いて伝える」である。この活動では、生徒一人ひとりにとって興味のある問題は多岐にわたっており、知っている語彙や表現も互いに限られているため、語彙や伝え方を工夫することが要求される。伝えたい事象について理解してもらうためには、語彙数が限られていることもあり、言葉だけでなく、実物や写真などの活用は効果的なコミュニケーションについて試行錯誤し、考える良い機会である。これに加え、Lesson 5では、比較級・最上級を学習することで、客観的なデータや資料の提示も可能となる。相手に理解を促す効果的な表現にするために、生徒は、内容を整理した上で、それをどのような語彙を使って表現をすればよいかを試行錯誤するだけでなく、テキストの細部に書かれている情報や、客観的なデータを示したりすることで、探究的な活動に生かされる資質・能力がより育まれると考える。

③ 3年生

主に、言語活動における相手意識を明確にするために、2つの手立てをした。第一に、伝える技能を工夫することである。実物やICT（画像、スライド、音声）などを活用して、聞き手の視覚や聴覚に訴えるよう

伝えた。人がコミュニケーションをする際、視覚による情報は55%、聴覚情報は38%、言語情報は7%とある。そのため、言語情報以外の情報は、伝える際にとっても重要といえる。Lesson 1「英語の授業で歌う英語の曲を提案しよう」という活動では、曲の魅力を伝える際に、実際の曲を流す演出を入れた。実際に歌いたいと思える曲かどうかは、曲の雰囲気やテンポなど、言語情報のみからではわからないものである。実際の曲も聴いて選ばれたため、生徒たちは納得して歌っている。Lesson 3「おすすめの本（絵本）を紹介しよう」という活動では、個人のタブレット端末に本の写真（画像）を見せながら紹介した。Show & Tellのように端末の写真を指しながら、相手の理解を確認して伝えていた。Lesson 2, 3の活動内容は、いずれも日本に興味のある外国人に向けて、雑誌の記事としてまとめ、そのいくつかを校内に掲示した。Lesson 5では、アメリカのキング牧師の演説の一部を視聴し、人を奮い立たせるスピーチの特徴を考えさせた上で、社会の問題点をあげ、スピーチをした。

第二に、伝える内容を工夫することである。Projectで発表する際には、根拠となる体験や資料を活用することとした。普段から教師が見本となるよう、授業で実体験を紹介したり、ランキングや統計表等の資料を意図的に提示している。Project 1「外国人観光客に日本のスイーツを考案しよう」では、教師が人気のスイーツや食べ方、消費量の多い地域などの資料を提示した後、生徒が根拠となる資料を基に発表することを条件とした。生徒は日本や住んでいる地域をイメージしたスイーツの絵や根拠となる資料を入れた発表スライドで提案した。また、英語を話す際に、相手の状況に応じて伝える内容を変えることができるようにした。その場で瞬時に考えて修正できるよう、詳しく伝える際は、原稿（英文）ではなくメモ（キーワード）を書かせている。人前で発表したり対話をする場面では、相手の反応に応じて伝える言葉や説明を変えたり、質問をすることでより理解し合えるようにした。Lesson 5「社会の現状を踏まえてスピーチしよう」という活動では、社会的な話題について、自分が問題だと感じることを取り上げ、自分の経験やアンケート調査の結果などから根拠を基に伝えた。聞き手の反応を見て伝え方だけでなく内容も変えていいこととした。

学年が上がるに連れて、相手に理解してもらうための工夫を生徒自らが考えることができるよう、相手意識を明確にすることを通して、創造デザイン科における探究活動で、その力が活用されることを期待している。

3. 参考文献

- 1) 弓野 憲一, 平石 徳己ほか (2007) : 世界の創造性教育 展望
- 2) 金子惇, 渡部貴敬, 半田智美ほか (2020) : 中学校における英語の「探究型学習」に関する調査研究 公益財団法人やまがた教育振興財団「教員養成に関する調査研究事業」報告書
- 3) 文部科学省 (2018) : 中学校学習指導要領 (平成 29 年開示) 解説 外国語編 開隆堂
- 4) MacKenzie, Trevor. (2016) : *Bringing Inquiry-Based Learning Into Your Class* Edutopia, December 1.; <https://www.edutopia.org/article/bringing-inquiry-based-learning-into-your-class-trevor-mackenzie>
- 5) Mehrabian, Albert. (1972) : *Silent Messages* Wadsworth Publishing Company
- 6) 国立教育政策研究所 (2020) : 「指導と評価の一体化」のため学習評価に関する参考資料 中学校 外国語 東洋館出版

4. 単元計画

① 1年生

時間	ねらい (■), 言語活動 (丸数字)	評価規準 (○) 観点【 】 指導上の留意点 (・)	知	思	態	備考
1	<p>■ケイトのブログを読み、その内容を捉える。</p> <p>①単元末の活動について知る。</p> <p>②資料映像や教師による補足情報を聞いたり、本文を読んだりして内容を捉える。</p> <p>③文脈の中で過去形の動詞の形や意味を理解する。</p>	<p>・単元末の活動に必要な知識や力に気づかせる。</p> <p>・ピクチャーカードや音声による説明を用いて、生徒の理解を補う。</p>				・後日行うテストに向けて、「帯活動」
2	<p>■過去形を場面に応じて使用し、伝えたいことを英語で話すことができる。</p> <p>①ペアやグループでの活動を通して、過去形の用法を理解する。</p> <p>②聞き取った内容を整理し、自分の言葉で伝える。</p>	<p>・スライドを使用し、語の変化に視覚的に気づかせやすくする。</p> <p>・ターゲットになる言語材料を用いて、自分の言葉で伝える場面を設ける。</p>				で、身近な話題に対するやりとりをする。
3	<p>■ケイトとディナーの会話を聞き、内容を捉える。</p> <p>①資料映像や教師による補足情報を聞いたり、本文を読んだりして内容を捉える。</p> <p>②文脈の中で過去形の疑問文の形や意味を理解する。</p>	<p>・ピクチャーカードや音声による説明を用いて、生徒の理解を補う。</p>				
4	<p>■過去形の疑問文を場面に応じて使用し、伝えたいことを英語で話すことができる。</p> <p>①ペアやグループでの活動を通して、過去形の疑問文の用法を理解する。</p> <p>②聞き取った内容を整理し、自分の言葉で伝える。</p>	<p>・前時から学習している言語材料を用いて、自分の言葉で伝える場面を設ける。</p>				
5	<p>■ケイトの日本での思い出を読み、その概要を捉える。</p> <p>①資料映像や教師による補足情報を聞いたり、本文を読んだりして、内容の概要を捉える。</p>	<p>・ピクチャーカードや音声による説明を用いて、生徒の理解を補う。</p>				
6	<p>■ケイトのブログにコメントを書く。</p> <p>①ケイトの思い出の感想に注目し、ケイトの心情を捉える。</p> <p>②ケイトの文化的背景を知り、旅行中にどのような発見があったかを読み取る。</p> <p>③ケイトに感想や質問を考え、書く。</p>	<p>・既習の言語材料を用いて、自分の言葉で伝える場面を設ける。</p>				
7	<p>■伝えたい夏休みの思い出について考える。</p> <p>①花の夏休みの日記を読む。</p> <p>②花が取り入れた工夫を読み、日記と照らし合わせる。</p> <p>③自分の夏休みの思い出を1つ選び、英語で書く。</p> <p>④海外の生徒が書いた実際の日記を読み、相手に理解してもらうために必要な表現を考える。</p>	<p>○夏休みの思い出について書こうとしている。【態】</p> <p>○読み手に理解してもらうために必要な表現を考えることができる。【思】</p> <p>・ケイトのブログや日記を参考にし、読み手に伝わりやすい内容や書き方を考え</p>		○	○	

		させる。				
8	<p>■文化の異なる相手に伝わる表現を考え、内容をまとめる。</p> <p>①ペアで日記を読み合い、読みやすくなる工夫やわかりやすくなる工夫を考える。</p> <p>②必要な情報を収集して比較し、相手に理解してもらうために必要な表現を再度考える。</p> <p>③日記に書く内容を整理する。</p> <p>④絵日記としてまとめる。</p>	<p>○過去形を正しく用いて、思い出について書くことができる。【知】</p> <p>○夏休みの思い出について書こうとしている。【態】</p> <p>・相手意識を持たせ、読み手に伝わりやすい表現を考えさせる。</p>	○	○	○	
後日	定期テスト	<p>○夏休みの思い出について書こうとしている。【態】</p> <p>○読み手に理解してもらうために必要な表現を考えることができる。【思】</p> <p>○過去形を正しく用いて、思い出について書くことができる。【知】</p>	○	○	○	

②2年生

時間	ねらい (■), 言語活動 (丸数字)	評価規準 (○) 観点【 】 指導上の留意点 (・)	知	思	態	備考
1	<p>■単元の目標を理解するとともに、学校生活の中で楽しく過ごしている時間について伝え合う。</p> <p>①楽しく過ごしている時間についてペアで伝え合う。</p> <p>②データを引用するための英語表現 (According to, The table shows...など), 比較級や最上級の特徴やきまりを簡単に確認する。</p> <p>③自己目標を設定する。</p>	<p>・印象だけでなく、データなどを示して説得力を伴ったアウトプットを心がけるきっかけを与える。</p>				<p>・考えを伝える際に、公的機関による調査等の統計データ検索し、説得力のあるアウトプットを心がける。</p> <p>・後日行う発表に向けて「帯活動」で、身近な話題に対するやりと</p>
2	<p>■教科書の対話文を読み、内容に関する自分の考えをペアで伝え合う。</p> <p>①質問を聞き、英文の概要を推測する。</p> <p>②英文を読み、内容を確認する。</p> <p>③予測される登場人物の発言と考えの根拠をペアで伝え合う。</p> <p>④新出語句の語の意味や比較級の構造と意味を理解する。</p>	<p>・英語が苦手な生徒に対し、挿絵や音声による足場かけを行う。</p> <p>・挿絵や登場人物に関するこれまでに得た情報から、根拠に基づいて意見を形成し、発信するように指示する。</p> <p>・前時に学習した言語材料が実際に使われている場面に触れ、構造と意味の理解を進める。</p>				
3	<p>■教科書の対話文を読み、内容に関する自分の考え</p>	<p>・ペアでの英文の内容に</p>				

	<p>をペアで伝え合う。</p> <p>①質問を聞き、英文の概要を推測する。</p> <p>②英文を読み、内容を確認する。</p> <p>③予測される登場人物の発言と考えの根拠をペアで伝え合う。</p> <p>④新出語句の語の意味や比較級の構造と意味を理解する。</p>	<p>関連する対話を通して、読む動機付けを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や登場人物に関するこれまでに得た情報から、根拠に基づいて意見を形成し、発信するように指示する。 ・前時までに学習した言語材料が実際に使われている場面に触れ、構造と意味の理解を進める。 				<p>りを積み重ねる。</p>
4	<p>■教科書の英文を読み、内容に関して自分の考えを伝え合う。</p> <p>①英文を読み、内容を確認する。</p> <p>②英文の内容から推測されるストーリー展開についてペアで伝え合う。</p> <p>③新出語句の語の意味や比較級の構造と意味を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が苦手な生徒に対し、挿絵や音声による足場架けを行う。 ・英文の内容を踏まえ、根拠に基づいて意見を伝え合うように指示する。 ・前時までに学習した言語材料が実際に使われている場面に触れ、構造と意味の理解を進める。 				
5	<p>■教科書の英文を読み、その要点を捉える。</p> <p>①英文を読み、その内容に関する簡単な質問に答える。</p> <p>②新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示し、生徒の理解を補う。 ・要点を捉えるために、各段落にタイトルを付けて整理する。 				
6	<p>■教科書の英文を読み、考えたことなどを伝え合う。</p> <p>①英文を読み、内容に関する自分の意見をペアで伝え合う。</p> <p>②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の内容を踏まえ、相手の興味関心からどんな活動が提案できるか考え、ペアでの対話活動で内容を深める機会を設ける。 				
7	<p>■小学生から得られた中学校生活への不安に関するアンケートの結果を踏まえ、自分の考えをレポートにまとめる。</p> <p>①個人でブレインストーミングをする。アンケートの結果から、相手のニーズを把握し、アイデアをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データを示す設定とすることで、説得力のあるレポートを心がけると共に、ターゲットとなる言語材料を用いる機会を設ける。 				

	②第2次までに学んだことを踏まえ、読み手に伝わるように内容を工夫してレポートの内容を練る。				
8	<p>■前時でまとめたレポートの内容を磨き上げる。</p> <p>①ペアになり、互いを小学生にみたくて、互いにレポートを読み合い、内容についてペアで対話をする。</p> <p>②対話の結果、内容や表現などの変更点を原稿に反映する。</p> <p>③再考した原稿を基に、ペアを変えて伝え合う。</p> <p>④対話の結果、必要に応じて内容を修正する。</p>	<p>・相手意識を持ち、伝わりやすい表現を心がけるために、できる限り簡単な語句を用いる。</p> <p>・伝え合ったことを踏まえ、内容や使用語彙を再構築し、その内容にレポートに反映する。</p>			
9	<p>■レポートを展示し、評価をし合う。</p> <p>①完成したレポートを展示し、互いに読み合う。</p> <p>②英文の説得力や、表現や内容の工夫に焦点を当てて評価し合う。</p> <p>③自己目標の達成状況等を振り返り、次の課題を明らかにする。</p>	<p>○小学生に安心して進学してもらえるように、中学校生活について事実や自分の考えを整理し、比較級や最上級などを用いて書く技能を身に付けている。【知】</p> <p>○小学生に安心して進学してもらえるように、中学校生活について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて書いている。</p> <p>【思】</p> <p>○小学生に安心して進学してもらえるように、中学校生活について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。</p> <p>【態】</p>	○	○	○
後日	単元テスト		○	○	○

③3年生

時間	ねらい (■), 言語活動 (丸数字)	評価規準 (○) 観点【 】 指導上の留意点 (・)	知	思	態	備考
1	<p>■アメリカの博物館についての対話文を読み、考えたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>①単元で学習する内容の見通しを持たせる。</p> <p>②教科書に掲載されている写真や教師の発問から気付いたことを伝え合う。</p>	<p>・単元で学ぶことを想起させる。</p> <p>・既習と新出表現の言語材料を織り交ぜ、実際に使われている場面を</p>				<p>・自分の考え等を伝える際は、理</p>

	<p>③文脈の中で、関係代名詞の意味と構造を理解する。</p> <p>④ペアで話した内容を全体で共有する。</p>	<p>例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ出身のマークが博物館を紹介した理由を考えて話し合う。 				<p>由を伝えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日行うパフォーマンスコンテストに向けて、「帯活動」で、身近な話題に対するやりとりをする。
2	<p>■博物館のガイドの説明文を読み、概要や要点を捉え、感じたことを伝え合う。</p> <p>①教科書に掲載されている写真や資料映像、教師の発問から気付いたことを伝え合う。</p> <p>②文脈の中で、関係代名詞が省略された文の意味や構造を既習表現と比較して理解する。</p> <p>③ペアで話した内容を全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した言語材料が実際に使われている場面に触れる。 ・ピクチャーカードや関連する資料などを活用し、生徒の理解を支援する。 ・黒人が不当に逮捕されることになった経緯を考えて話し合う。 				
3	<p>■ワシントン D.C.の公共施設やお土産についての説明を基に、他のものを説明し合う。</p> <p>①教科書の説明文を聞いて、聞き取った内容をペアで確認し合う。</p> <p>②提示された施設やものについてペアで交互に説明し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を提示し、生徒の理解を補う。 ・前時までに学習した言語材料が実際に使われている場面に触れる。 				
4	<p>■キング牧師の偉業について書かれた英文の要点を捉える。</p> <p>①前時までのアメリカの人種差別の歴史について振り返る。</p> <p>②差別撤廃を代表してキング牧師が行ったことが書かれた本を読み、要点をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英文の要点を捉えながら読むよう伝える。 ・人種差別に苦しめられた人々が立ち上がって社会を変えた事実を理解する。 				
5	<p>■理想の社会を実現するために、人々奮い立たせたスピーチについて考える。</p> <p>①キング牧師の実際の演説を視聴し、心を動かすスピーチについて考えを伝え合う。</p> <p>②社会の現状の問題点を自分の経験などから根拠を持って考え、共有する。</p> <p>③発表メモの構想を練る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の有名なスピーチがなぜ人を奮い立たせたのか考えて参考にする。 ・日本の身近な場面で、社会的な問題がないかを振り返る。 		○		
6	<p>■街頭インタビューの対話文を基に、スピーチに関わる調査内容を考える。</p> <p>①インタビューの対話の内容を確認する。</p> <p>②スピーチに関わる調査内容を作成し、グループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの質問内容を考える。 ・根拠となる内容を提示する表現を確認する。 ・端末で調べた資料も参 				

	③実際に端末で調査を実施し、結果からわかることをスピーチの内容に入れる。	考に、課題を捉える。 ・スピーチに関わる質問を考え、アンケートを実施する。			
7	<p>■ピクチャーカードを使い、教師に教科書の内容について説明する。</p> <p>①ペアになり、相手を教師やALTにみたてて、教科書本文の内容についてピクチャーカードを使って説明する。</p> <p>② 全体で教科書本文の内容を説明する。</p> <p>③ 単元での学習や学習状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>	・聞き手に伝わるように、自分の言葉で表現しようとする姿勢を認める。			
8	<p>■より良いスピーチになるよう、再考する。</p> <p>① アンケート調査の結果をスピーチの内容に追加する。</p> <p>② メモを基に複数の人に伝えることを通して、聞き手を意識できるようにする。</p> <p>③ より良いスピーチになるよう再度練り直す。</p>	<p>・アンケートの結果を基に、根拠を基にスピーチの内容を考える。</p> <p>・聞き手を意識して伝えるにはどうすればいいかを考えて改善する。</p>		○	
9	スピーチ（パフォーマンステスト）	<p>○社会の現状を踏まえて、根拠を基に主張を述べることができる。</p> <p>【思】</p> <p>○大事なメッセージが伝わるように、考えを整理して話そうとしている。【態】</p>		○	○
後日	単元テスト	<p>○関係代名詞の意味と構造を理解して、英文の概要の読み取りや聞き取りができる。【知】</p> <p>○関係代名詞などを使って、自分の考えを具体的に書くことができる。【思】</p>	○	○	○